

平成25年 第17回

東京都教育委員会定例会会議録

日 時：平成25年10月24日（木）午前10時00分

場 所：教育委員会室

平成25年10月24日

東京都教育委員会第17回定例会

議 題

1 議 案

第79号議案

東京都公立学校長の任命について

第80号議案、第81号議案、第82号議案、第83号議案

東京都公立学校教員等の懲戒処分等について

2 報 告 事 項

(1) 平成25年度採用前実践的指導力養成講座について

(2) 平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

	委員長	木村 孟
	委員	内館 牧子 (欠席)
	委員	竹花 豊
	委員	乙武 洋匡
	委員	山口 香
	委員	比留間 英人
事務局(説明員)	教育長(再掲)	比留間 英人
	次長	直原 裕
	教育監	高野 敬三
	総務部長	松山 英幸
	都立学校教育部長	堤 雅史
	地域教育支援部長	前田 哲
	指導部長	金子 一彦
	人事部長	加藤 裕之
	福利厚生部長	高畑 崇久
	教育政策担当部長	白川 敦
	教育改革推進担当部長	出張 吉訓
	特別支援教育推進担当部長	廣瀬 丈久
	人事企画担当部長	粉川 貴司
(書記)	総務部教育政策課長	壹貫田 剛史

開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【委員長】 ただいまから、平成25年第17回定例会を開会します。

本日、内館委員からは御都合により御欠席との届出を頂いております。

まず、取材・傍聴関係でございます。報道関係は、毎日新聞社ほか6社、合計7社であります。個人は、合計14名からの申込みがございます。許可してもよろしゅうございますか。 異議なし それでは、入室していただいでください。本日は、冒頭のカメラ撮りはございません。

会 議 録 署 名 人

【委員長】 本日の会議録署名人は、竹花委員にお願いします。

前々回の会議録

【委員長】 前々回9月12日開催の第15回定例会会議録については、先日お配りいたしまして御覧いただいたと存じますので、よろしければこの場で御承認を賜りたいと存じますが、よろしゅうございますか。 異議なし それでは、第15回定例会の会議録につきましては御承認いただきました。

前回10月10日開催の第16回定例会会議録が机上に配布されておりますので、次回までに御覧いただき、次回の定例会で御承認いただきたいと存じます。よろしく申し上げます。

次に、非公開の決定です。本日の教育委員会の議題のうち、第79号議案から第83号議案までにつきましては、人事等に関する案件ですので非公開としたいと存じますが、よろしゅうございますか。 異議なし それでは、この件について、そのように取り扱います。

報 告

(1) 平成 2 5 年度採用前実践的指導力養成講座について

【委員長】 それでは、報告事項からまいります。報告事項(1)平成25年度採用前実践的指導力養成講座について、説明を、指導部長、よろしく申し上げます。

【指導部長】 平成25年度採用前実践的指導力養成講座について御説明をいたします。

今年度の教員採用選考の結果が出まして、今年も2,598名の名簿登載者がおりますけれども、実際に教壇に立つ前に実践的な養成講座を^{しっかい}悉皆で行う取組を拡充していくという内容でございます。

採用前の段階として、学級経営とか保護者の対応は非常に不安を抱えている者が多いため、4月に採用される前に、この表に示しているような具体的な内容を講座で行っていくものでございます。

これまでも二つの講座を開設しておりました。この表の下段「教科等に関する講座」がございまして、平成23年度からは体育の実践的指導力向上の講座、昨年度からは理科の実験、あるいは昆虫・動物ウォッチングといった理科の実践的指導力を向上する取組、これは小学校教員採用の名簿登載者を中心に既に行ってきておりますが、これを7講座に拡充し、なおかつ、ボリュームも6日間から11日と半日という形で拡充することによりまして、即戦力となる新人教員を育成していく内容でございます。

まず、上段の「学級経営等に関する講座」でございます。一つは学級経営・学習指導、もう一つは発達障害などの特別支援教育について学ぶ講座、更に保護者との信頼を築くための講座、3本ございまして、これにつきましては、名簿登載した全ての者を対象に^{しっかい}悉皆で実施する内容でございます。ただし、ここに書いてございますとおり、既に他道府県で教員を経験していたり、前年度期限付で任用された経験者などは、受講しなくてもよいという形にしておりまして、実質的には2,000名程度の名簿登載者を対象とすることになります。

内容といたしましては、それぞれ講義を1日、講義だけでは具体的な状況が分かりませんので、1日は学校へ出向きまして、例えば、授業を見たり、給食指導を見たり、帰りの会を参観したり、先輩の先生方の1日の動きを見て回る日を設定しております。

講師といたしましては、私どもの指導主事が中心に講義をいたしまして、学校訪問におきましては、退職校長会の全面的な協力を得まして、延べ470名の退職校長先生に御協力を頂くことになっております。また、学校訪問におきましては、小学校、中学校、高校、特別支援学校を含めて延べ235校の学校に御協力いただいて、講座を実施する予定でございます。

それから、下の「教科等に関する講座」でございますが、先ほど申し上げましたように、体育、理科については引き続き実施してまいります。体育につきましては、各小学校で実際に子供と体を動かす楽しさを実感してもらおうということで、小学校の名簿登載者を中心に、中学、高校の体育、また理科につきましては、東京学芸大学、あるいは多摩動物公園に引き続き協力を頂きまして、これにつきましても小学校と、さらに中学、高校の理科の名簿登載者も参加をしてもらう予定です。

また、一番下でございますけれども、道徳の授業をどうやったらいいかということがなかなか分からないところがございますので、道徳の実践的指導力養成講座、これは2,000名を対象としております。

それから、小学校の外国語活動の指導力養成講座につきましても、実際に具体的な指導の仕方について学ぶという取組を今年の11月からスタートしてまいります。

なお、こうした採用前の名簿登載者を^{しっかい}悉皆でこのような形で講座を設ける都道府県は東京都だけございまして、一部京都市、横浜市、福岡市、神戸市など、政令指定都市では1日から2日程度、教員になる心構え、あるいは希望者を対象にといった形で実施している政令指定都市はございますけれども、このような規模、内容で実施する講座は全国で初めてと断言しているのかと思っております。

説明は以上です。

【委員長】 ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして、何か御質問、御意見はございますか。

【竹花委員】 これはいつ頃からやり始めたものだったですか。

【指導部長】 実践的指導力養成講座につきまして、体育の講座は平成23年度からスタートしておりまして、今年で3年目になります。

【竹花委員】 学級経営等に関する講座は新規ですか。

【指導部長】 はい。今年度から行います。

【竹花委員】 これまでやった教科等に関する講座は、体育と理科をやってきたのですけれども、これについて受けた人たちの感想みたいなものは聞いていますか。

【指導部長】 体育も理科も聞いております。特に体育につきましては、体育の授業の指導の仕方だけではなくて、例えば、子供と休み時間とか放課後とか、体を動かすことによって、体力だけではなくて、人間関係作りにも役立つのだということを学んだとか、良いところ、できたところを褒めることが子供のやる気を促すことが、自分が体を動かすことを通して理解できたとか、あるいは理科の実験などにつきまして、大学の授業では教わらなかった内容をこういうところで勉強できて良かったという肯定的な意見が大半でございます。

【竹花委員】 今まで、これからやることもそうですけれども、交通費等は支弁しているのですか。

【指導部長】 交通費については自己負担でございます。

なお、事故があつたりしてけがをしたときなどの保険については、こちらで負担いたします。

【竹花委員】 それについては文句が出たりしてはいませんか。

【指導部長】 今のところございません。

【竹花委員】 文句があつても言う人はいないかもしれませんが。希望者だけではなくて、悉皆^{しつぱい}だということについては、義務的な要素がありますけれども、その辺については、法令上大丈夫ですか。

【指導部長】 あくまでも必要だからやるのだということで、対象者には説明してまいります。受講しなければ、採用しないという意気込みで私どもは声を掛けていきたいと考えております。

【竹花委員】 そこをよく整理しておいた方がいいと思います。受講しないと採用

しないというプレッシャーをかけるのは、少しどうかという感じもします。基本的には希望者について来ていただくと。だから、是非とも受けてもらいたいというスタンスでやるのが相当ではないかと思しますので、そこは、給料を払うわけではありませんので、交通費も支弁するわけでもないということになりますと、もちろんそう大して大きな負担ではありませんが、いずれ1日なり2日なりの話でありますから、大きな問題だとは思いませんけれども、そこはスタンスをよく決めて、余り強制的にならないようにした方がいいのではないかと思います。もちろんこういうことがすごく大事だということはよく分かりますし、東京都の教員としてやっていこうという準備をいろいろな形で当人たちはしておると思しますので、その準備を助けるという意味で意味のあることだと思いますので、そういう視点でやっていただければと思います。

ちなみに、多摩動物公園の昆虫・動物ウォッチングを私も昨年か一昨年か、行かせていただきました。私自身にとっても非常に面白かったけれども、参加している先生の卵たちは非常に興味深く、昆虫を触ったことがない人が多いし、触り方もよく知らないままで、昆虫嫌いという先生の卵たちもいたようですけれども、そこが大分緩和をされたという感じを私は見ていて受けました。そういうことはすごく大事なことだし、そういう機会を提供することは大事だと思います。今申し上げたように、基本的に強制に当たるものではありませんので、先生たちの準備の助けをする。しかし、東京都教育委員会としては、是非とも皆さん、受けてくださいよという形であろうと思いますので、そこはそういう形でやっていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【乙武委員】 私自身が小学校で3年間教員を務めていたことから、特に今回、学級経営に関する講座の新規の3本は、正にニーズに合致していると。私自身もこういったところが不安な状態で教員になったものですから、すごく内容が適していると思ったのです。この内容は、現場から具体的にどのようにしてニーズをすくい上げたのかについて教えていただけますでしょうか。

【指導部長】 これにつきましては、まず教員を希望する大学生の意識を確認いたしておりまして、もちろん授業をどうするかというのが当然あるわけですが、もう一つの不安としては、特に小学校の先生は4月からすぐ担任を持ちますので、保

護者の対応とか子供たちの学級経営は、やったことがないということで、不安に思っているということがございました。それから、発達障害を中心とするこの辺りにつきましても、大学でももちろん教わってはいるのですけれども、理論的なことが多く、具体的に学校でどのように先生方が個に応じた指導をやっているかということについては、実践的な内容を知りたいというニーズがございました。また、小・中・高校の校長先生方からも、1年目の先生、頑張っているわけですけれども、どんなところに苦労していますかと問いますと、生徒との人間関係とか、やはりこういった内容に苦労しているという声が随分ありまして、この3本を立てたところでございます。

【乙武委員】 そちらの整理としては、大学生へのアンケートというか、大学生のニーズ、それから現場の校長先生方のニーズという認識でよろしいですか。

【指導部長】 あわせて、初任者、若手教員の研修等も行っておりますけれども、彼らに対しましても、どんなことで悩んでいるかということや研修のたびに聞いておりまして、特にここに書いた点については、不安を抱えながら仕事をしているので、研修においても、こういったことは、教員になってからも教わりたいという声を聞いております。

【乙武委員】 ありがとうございます。

【竹花委員】 今回の新規講座を含めて、大学の教育学部の教員の人たちの傍聴というか、参観は検討できませんか。というのも、私ども教員を受け入れて仕事をしてもらう立場からすれば、できるだけ即戦力といいますか、学校現場に自信を持ってやってくれるような大学教育をしてほしいという希望を持って、これまでも各教育学部にはいろいろ話をしてきているわけです。今こころの事柄、個々に講座として我々が事前に是非とも経験してほしいと考えている中身は、今の大学教育の中で、恐らく余りしっかりやられていない部分と考えていいだろうと思うのです。そういうものがどういうところにあるのかということについて、教員を多数輩出してくださっている教育学部の関係者の方々に少し見てもらうことも考えられませんか。

【指導部長】 既に東京教師養成塾というのをやっておりまして、こういった内容もかなり取り入れてやっております。教師養成塾の講座を教員を希望する教育学部の学生に既に公開しておりまして、そちらの方で見ていただくことはやっております。

ただ、今回、15人から20人ぐらいの名簿登載者が一つの学校の教育活動を参観しますので、そういったところは、今回は名簿登載者のみに限って行いたいと思います。それ以外のところにつきましては調整させていただきたいと思います。

【竹花委員】 マストでどうしてもそうしろと申し上げているわけではありません。大学側が少し意識の変化をもたらすのは、確か2年か3年ほど前に、私どもが今の教育監が指導部長のときに一度要請文書を作って、持っていったことがあったのではないかと思うのです。その後、大学の教育学部がどう変わったのかという点については、確か報告は受けていないと思うのです。大学の教育学部の教育と教員の養成について、もう少し受け入れる側の要望が伝わるようにしていくのは、東京都教育委員会の一つの課題になっていると思いますので、そういう点で、こればかりではなくて、そういうことを生かす機会があるのかどうか。大学側の教育の意識を少し変えていくような手掛かりみたいものをどこかで作ることに御留意をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【指導部長】 はい、分かりました。

【山口委員】 非常に実践に即したい事業だと思うのですが、内容はすばらしくても、当たり前ですけれども、日数的にもこれでは十分とは言えないと思うのです。新任で入っていかれた先生は、恐らくいろいろなことにぶつかると思うのです。予測の範囲内で起きたことは、人間はある程度受け入れられるのですけれども、予測していなかった事案にぶつかったりというときには、すごくショックを受けたりするということがあります。

大学の先生方に御指導いただくのはいいのですけれども、でも、実際大学の先生は本当は現場に立たれておられる方ではないので、そういった意味では、新任の研修会などで上がってきた要件がありますね。こういったことで自分たちは苦労して直面して、どのように対処したとかという事案をこういった機会にお渡ししておく、ああ、こういうことはあるのだな、こういうことを勉強しておかなければいけないなという知識だけでも、特に新任の1年目、2年目の先生方から上がってこられた事案などをもし提供できるのであれば、事前にお渡ししていただくと、随分構えていけるというのですか、余り構え過ぎてもいけないと思うのですけれども、学校によっても

差がありますし、そういったことができれば、是非こういった機会にお願いしたいと思います。

【指導部長】 はい、分かりました。

【委員長】 ほかによろしゅうございますか。

質問ですが、指導部長、今おっしゃいましたけれども、2,000人は一遍に講義を聞くわけですね。

【指導部長】 はい、そうです。

【委員長】 学校訪問については15名から20名を1グループにするのですか。

【指導部長】 先ほど申し上げましたように、2,000人を単純に235校で受け入れますので、その日にちによっても若干の違いはあると思いますけれども、10名から15名ぐらいの単位になるうかと思えます。

【委員長】 下の「教科等に関する講座」についても人数を教えてください。大まかで結構です。体育については、指導者講習会と「体であそぼうウィーク」、二つあるのですが、どのようなやり方をしているのですか。受講者の人数、その辺はどうなっているのでしょうか。理科も含めてお教えいただければと思います。

【指導部長】 これまでも小学校の教員採用試験の名簿登載者全員に対しまして呼び掛けはしておりましたが、実際に全員が参加できるということではなく、約3分の1、300名から400名程度の参加で今まで「体であそぼうウィーク」、あるいは理科の実践的指導力養成講座は行っております。今回も小学校の名簿登載者約1,000名を想定しておりまして、これに体育の場合は、保健体育の中学、高校の名簿登載者約100名、それから理科の名簿登載者が約250名おりますので、この名簿登載者には声を掛けていきたいと思っております。

【委員長】 理科の実験は、大きなグループだととてもできないので、グルーピングするわけですね。さきほど竹花委員がおっしゃった昆虫・動物ウォッチングはそうたくさんの数は一度にハンドリングできないですね。グルーピングはどのようにやっているのですか。

【指導部長】 これまでは、東京学芸大学で行う実験などにつきましては1グループ5人から6人ぐらいのグループで、必ず実験できるという体制でやってきておりま

す。

【委員長】 分かりました。

それともう一つ、竹花委員からも御指摘がありました。上の学級経営、教科等に関する講座、いずれも受講者の感想とか反応とかは取っておられるのですね。

【指導部長】 これまで行ってきたものについては全て取っております。

【委員長】 内容によつての仕分けは難しいと思うのですが、大まかな仕分けをしていただいて、教育委員の皆様方にそれを一度見せていただければと思います。いかがでしょうか、可能ですか。

【指導部長】 そのようにさせていただきたいと思います。

【委員長】 そういうことが、山口委員が今御指摘になったグッドプラクティス、過去の困った体験がグッドプラクティスになるかどうか分かりませんが、非常に参考になると思いますので、是非よろしくお願いします。

それから、教科等に関する講座を平成23年度から始めて、体育を取り上げた理由は何か。

【指導部長】 これにつきましては、小学校の教員採用を希望する大学生に聞いたところ、理科の実験と体育の実技指導に不安がある者が7割近くおまして、これは大変だということで体育と、その次に昨年度から理科ということで、体育と理科については、非常に苦手意識を持っています。国語とか算数を教えるのと違って、準備もありますし、大学で余り実技の講座を受けていないことを言っている大学生も多かったです。

【委員長】 分かりました。

一番下の外国語ですが、外国人を講師にすることはお考えになったことはありますか。

【指導部長】 これにつきましては、現段階では私どもの指導主事が中心になって基本的な内容をと考えております。ここで外国人講師をどこまで入れられるかどうかについては、今後検討させていただきたいと思います。

【委員長】 是非そうしていただきたいと思います。

ほかによろしゅうございますか。 異議なし それでは、この件につ

いては報告として承りました。ありがとうございました。

(2) 平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

【委員長】 次は、報告事項(2)平成25年度「全国学力・学習状況調査」の結果について、説明を、同じく指導部長、よろしく申し上げます。

【指導部長】 平成25年4月24日に行われました今年度の全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、これについて説明をさせていただきます。

左側に「調査の概要」を書いておりまして、今回は^{しっかい}悉皆調査ということで、平成21年に^{しっかい}悉皆調査をやって以来、4年ぶりになります。調査の内容は、基礎・基本的な知識を問うA問題と、活用、あるいは課題を解決するための方法を考えるB問題、国語と算数、数学の2教科であります。また、それ以外にも生活習慣や学習環境などについての意識調査も同時に行っております。左側にこの調査を実施した学校数と児童・生徒数を書いております。

真ん中の「3 教科に関する調査結果の概要」でございますが、右側を見ていただきますとわかりますとおり、今回、平成25年度は全ての問題で小・中学校ともに全国の平均正答率を上回っている結果が出ております。特に中学校を見ていただきますと、平成21年度の段階では、全国平均と同じか、あるいはそれを下回る状況でしたが、今回は全てを上回るということで、中学校での上昇が特徴的なところでございます。

なぜ中学校が比較して上昇したのかを分析してみますと、ここに書いておりますとおり、習熟度別指導において、それぞれの子供に合わせた教材を用いている学校が、若干ではございますけれども、平成21年度に比べて増えている。さらに、放課後などの時間を利用しました補習、学習サポートを実施している学校数もこのように増えております。

しかしながら、正答率だけを見ますと、良い結果ということが言えるかと思うのですが、1枚めくっていただきますでしょうか。別紙1ですけれども、平均正答率もさることながら、正答数の分布を見てまいりますと、点で打ってあるのが全国の分布の

形です。右側はよくできた方ですけれども、例えば国語Aなどは、全国の分布よりも正答数の高かったところが上回っております。ずっと見てまいりますと、国語、右側の中学校を見ていただいて、右下に中学校の数学Bがございます。これが形を見ても一目瞭然でございます、かなり左側に寄っている結果となっております。ですから、下に書いてあるとおり、これも全国平均の正答率を上回ってはおりますが、分布の形を見ますと、正規分布とはほど遠い、なおかつ、全国に比べてもいびつな形があるということで、ここに大きな課題があると考えたところでございます。

1枚目に戻っていただきますと、中学校の数学Bを大きくいたしました。今回は東京都と上位県、具体的には秋田県でございます。秋田県と東京都の分布を比べてみたところ、これも一目瞭然でございます、左側の正答数が低いグループが東京都は秋田県に比べて非常に多い。逆に真ん中から右側の正答数の高いグループは、今度は秋田県の方が多いという結果が出ました。

この原因はどういうところにあるのかを分析したのが右側でございます、意識調査のところから、「家で、テストで間違えた問題を勉強していますか」に対しまして、小学校では、「している」「していない」を比較したところ、当然家で復習をしている子供は正答率も高い結果が小・中ともに出ております。これをまた秋田県と比べてみますと、極端な結果が出まして、例えば小学校6年生を見ていただきますと、家へ帰って勉強しているかという問いに対して、東京の小学校6年生は約52パーセント、二人に一人が「している」「どちらかといえば、している」、これに対して秋田県は77パーセントがしている。中学校を見ていただきますと、更に顕著でございます、東京都の「あまりしていない」「全くしていない」という子供が63パーセント、約3人に2人がそう回答しております。秋田県は逆でございます、65パーセントの子供が家へ帰って復習をしている結果が分かりました。こうしたことから、できないこと、分からないことを放っておきますと、当然分かるようにならないわけでありまして、ここを徹底することが大切だということが結果から分かってきたところでございます。

具体的に問題を挙げて説明したいと思っておりますので、別紙2を御覧いただけますでしょうか。

左側は中学校の国語Aの問題であります。図書委員会で読書を推進するキャラクターを選ぶということで、本だなんというキャラクターと読むゾウくんというキャラクターのどちらが良いかを選考会で議論した。本だなんの方は、本の印象が強くて良い、楽しそうな雰囲気はあるけれども、何か読書を勧めている感じがしないという意見が出た。読むゾウくんは、身近にいる動物の方が良いという意見はあったけれども、言葉の響きが読書を勧めている感じがして良いとか、デザインがおもしろいという意見が出た。これを併せて記事の下書きにするとしたら、空欄に入る言葉はどんな言葉が入りますかという問題であります。

本だなんにつきましては、良いという意見が出ましたけれども、こういう指摘がありましたという構造の棒線が引いてある文になっております。これに対して読むゾウくんは、四角で何かを言った後に、こういう良いという意見があったので支持されたというのが後に来ておりますので、当然四角のところにはマイナスの意見が入るであろうということを想像いたしまして、正答は身近にいる動物の方が良いという意見がありましたけれどもというのが正答になるわけです。

ところが、下を見ていただきますと、ここの空欄に「ゾウのほうがかわいくて親しみやすいと思いますが」という回答をした生徒が6.2パーセントありまして、話の内容に関係なく、自分の思いを四角に書いてしまう生徒がいたということです。これについては、小学校3年生、4年生で理由を挙げて書くとか、目的をはっきりさせて書くことをしっかり勉強しているわけですがけれども、この辺りがきちんとできていないのではないかという分析をしたところです。

右側でございますけれども、中学校の数学Bの問題です。左側は平成21年度調査でありまして、5と6を足して11、6と7を足して13、11と13を足して24になる。このようなことを繰り返していきますと、3段目は全部4の倍数になることを証明しなさいという問題です。これは平成21年度の時点で、一番下にございましており、38.8パーセント、全国平均を下回る正答率でございました。

これとほぼ同様の問題が今年度出題されまして、右側の問題は2桁の自然数、例えば54という数字があるとしみますと、それをひっくり返すと45、54引く45は9、81、ひっくり返しますと18ですので、81引く18は63、いずれも9の倍数になる。どんな場合

でも9の倍数になりますということを一一般化して証明する問題です。これにつきましては正答率が40.3パーセントではございましたが、全国平均を上回りました。こういった問題につきましては苦手だということで、東京都が小学校5年生と中学校2年生で独自に行っておりますが、そういう問題でも実は出しております。そういうところで、これが弱点ですよということに注意喚起してまいりまして、授業を改善した成果の表れではないかと考えております。前の学年に立ち戻る、苦手だった問題は焦点化する、当たり前といえば当たり前ですが、ここを重点的にやっていく必要があると考えたところです。

1枚目に戻っていただきまして、以上のような結果から、右下、最後にございます「5 今度の取組の方向」としましては、習熟度別指導における学習集団のきちんとした設定、教材は子供たちに合った教材をそれぞれ作る。こういった習熟度別指導を行っていく。それから、放課後の補習もきちんとやっていくこと。右側には、仮に分からないところがあれば、繰り返し学習を行い、場合によっては、前の学年、あるいは小学校で分からなかったところまで立ち戻る学習をすることで、中学3年までにきちんとした力を身に付けさせていきたい。こういう方向で今後進めてまいりたいと思います。

説明は以上でございます。

【委員長】 ありがとうございます。ただいまの説明に対しまして御質問、御意見等はございますか。

【竹花委員】 秋田県がずっとこのところ学力調査において上位県に定着した感があって、その原因について、今御説明では、いろいろな試験、恐らく全国学力・学習状況調査の試験もそうでしょうし、学校でやる試験の結果について、後で間違えた問題について勉強していることが、その大きな差であるという指摘がありました。

一つは、秋田県では習熟度別授業ですとか補習はどういう状況になっているのかということが1点と、もう一つは、学校で、テストで間違えた問題について、勉強をやらせることについて、秋田県では何か特別なことをしておられるのかどうか。そこから学んで東京都で何かやれることがあるのかどうか。そういった点について御説明をいただけますでしょうか。

【指導部長】 補習などの特別な取組につきましては、実は把握してございません。ただ、例えば補習などの取組をどのように行っているかについての全国平均との比較はしておりまして、放課後等を活用した学習サポートにつきましては、例えば中学校においては、全国では86パーセントの学校が実施しているわけですが、東京都では94パーセントの学校が実施していると回答しております。また、小学校におきましても、全国が61.7パーセントに対しまして、東京都は71.8パーセントということで、10ポイントほど高くなっております。放課後の補習については、東京都の学校はかなり取り組んでいることは言えるかと思います。

【竹花委員】 もう一つの問題で、テストで間違えた問題についてどうやって見直しを、これは自宅ですか、それとも学校ですか、よく分かりませんが、秋田県は勉強しているのでしょうか。

【指導部長】 自宅だと調査でありますので、当然先生に教わった形でちゃんと正しい答えが導けるかどうかということは自習して、学校へ戻ってそれを確かめるということになるかと思います。学校におきましても、よく分からない子供に対しては、担任の先生が個別に、あるいは教科の担当者が分からない子供を集めての補習は行っております。

【竹花委員】 先ほどの習熟度別授業の量も含めて、秋田県ばかりではないかもしれませんが、平均点でもありますし、この分布図も参考にしながら、どういう取組をしているのかということについて、一度少し具体的に聞いてみたいかがですか。というのも、家でこれだけ勉強することに大きな差があるのは、もちろん御家庭における親の考え方もあるのかもしれませんが、何か子供たちの間に、試験で間違ったら、家でちゃんと復習するのは当たり前だという考え方が定着しているような感じがします。どうしてそういうものが定着するようになったのかという点について、学校側が当然努力しているはずで、その努力の仕方を少し学んでみていただけませんか。これでこれだけ大きな差が生ずるとすれば、そこに少し焦点を当てて、習熟度別授業、補習を充実していくのは非常に大事ですけれども、その中身においても、そうしたやり方を取り入れることも可能でしょうから、そこを少し勉強してみてくださいませんか。

【指導部長】 分かりました。4年ほど前でしたか、全国的に見て、体力が東京都の子供たちはかなり低いということで、体力の調査が高い県については訪問しております。それと同時に、秋田県、あるいは福井県などの学力の上位県にも、実は学校を見に行き、県の教育委員会などにも行ってございまして、そこでそれぞれの県の独自の取組、体力も学力もやっているのは既に聞き取りには行ってございます。それらを踏まえ、更に今後どうしていくかということについては、また検討してまいりたいと思っております。

【山口委員】 国語のところの具体的な問題の回答について御説明いただいて、こういうことができないのだなとよく分かったのですが、これは学力というよりも、今の子供たちが抱えているコミュニケーション能力にもちょっと匹敵するようなところを含んでいるのではないかと思います。

つまり、私たちが子供たちや、あるいは今の学生たちと話していても、キャッチボールがうまくいかないというのですか、問いかけていることに対してきちんと答えが返ってこない。原因がどこにあるのかというのはちょっと分からないのですけれども、例えば文章を読んでも、何を聞かれているのかというところをよく理解していない。斜め読みしているのか、あるいは文章を読んでいるというあれがないのか、恐らく国語というところについては、問題ができる、できないももちろんあるのですけれども、そういったところが少しあるのかと思って、その辺りも先生方に、今、余り、言葉によるコミュニケーションというのですか、メールとかそういったもので端的にやり取りはできるのかもしれないのですが、もう少し深いところのやり取りが少し足りなくなってきたので、そういったことが、先ほど御説明があったように、聞かれていることと違って、自分の言いたいことだけを言うところに出てくるのかと思って、もし注意を喚起できるのであれば、具体的にどうしろというのはなかなか言えないのですけれども、並行して是非取り組んでいただきたい。

【指導部長】 どうもありがとうございます。山口委員、今おっしゃられましたコミュニケーションについては、学習指導要領におきましても、伝え合う力を育てなければいけないということで、例えば小学校3年生ですと、相手に応じて書きましよう、あるいは目的に応じて書きましようということを教えています。ところが、中学

校2年生になりますと、今度は相手に効果的に伝わるように、文章全体の構成を工夫するというレベルになりまして、相手に応じて理由を挙げて書くという小学校3年生のことがきちんとできていまして、構成どころではないというところもありますので、山口委員、今おっしゃられたような相手を意識した、ちゃんと聞いて返すという指導については、これからも推し進めていきたいと思っております。

【乙武委員】 先ほど竹花委員が御指摘されていた、家でテストで間違えた問題をどれくらい勉強しているのか、秋田県に比べてかなり数字は低いということで、こういう場合、どうしても子供の問題、家庭の問題に原因を求めがちですけれども、私は、逆に教師に対する働き掛けでも、この数字を上げていくことは可能なのかと思っております。

例えば私が担任をしていた時代は、テストをやって、それを採点して返したときに、翌日の宿題は、そのテストの直しをやってくることにしていたのです。もちろん御家庭の環境だとか本人の意欲によって、なかなか自分一人でできない子もいるので、もちろん休み時間に先生を呼んでくれれば、先生と一緒にやるというのでもいい。必ず自分で赤い鉛筆で正しい答えにたどり着いて、それを今度は私が青いペンで丸をする。青いペンでもいいから100点を取るまでそれは終わらないとしていたのです。ですから、それが家庭でも学校の休み時間でもいいのですけれども、テストで間違えた部分についての復習は、そういう形でうちのクラスは全員がやっていたのです。

ですから、そういうテストの直しを教師がちゃんと見ていますかみたいなアンケートをすることで、そういうアンケートは難しいのかもしれないですけれども、そういった教師への働き掛けで、この数字をもう少し引き上げていくことは可能なのかということを感じました。

【委員長】 ほかに何かありますか。

【指導部長】 まさに御指摘のとおりだと思います。学力調査の結果を踏まえて、こういった内容もこれから全部学校にメッセージとして示していきますけれども、乙武委員おっしゃられたように、1組の先生はそうやってやっているけれども、隣の2組の先生はやっていないとか、1年生は熱心だけれども、3年生は余りやっていない

とか、学校全体としてやっていきましょうという形になりませんと、どうしてもこう
いう結果になってしまいます。今御指摘のあったところについてはきちんと伝えてま
いりたいと思っております。

【委員長】 教育委員会連合会でも総会の際に、ほとんど毎回、と申し上げてよろ
しいと思いますが、学力の問題を取り上げて、分科会で議論をしています。その会合
に秋田県、福井県等、学力上位校の委員長、あるいは教育長の方々が今日示されたよ
うな項目で調査をしたデータを持ってこられます。それだけを見ると、どうして秋田
県が優れているかは解明できませんが、一つ私が感じたのは、上位県の進学状況や家
庭の取組が違うのではないかという点です。それはデータに出てこないのですが、そ
の辺があるように思います。3、4年前に、学力上位県を訪問されて、学校訪問等を
やられたというお話ですが、是非またもう一度そういうところへ調査団を送って、も
う少し細かく見ることをやっていただきたいと思います。何か見つけられるのではな
いかという気がします。

また、山口委員の御指摘は、私も全くそのとおりだと思います。私が大学で今で言
う助教、助手になったころと最後のリタイアするころを比べると、学生の特質が大き
く変わったように思います。自分が若かったせいもあるかもしれませんが、若い時に
は、そう努力しなくても学生一人一人の個性がよく見えました。ところが、リタイア
近くなつた時には、学生が集団としてしか自分の目に映らなくなりました。彼等との
コミュニケーションができ難くなったのです。ですから、自分から入って行って、集
団をばらばらにするという努力をしました。コミュニケーションを取っていくと、そ
れぞれの個性が浮き上がってくるというところがあって、その辺の努力が必要なのか
と思っています。NHKの「課外授業ようこそ先輩」で野田秀樹さんが自分の出た小
学校へ行って、ドラマをやらせるところまで生徒を引っ張り上げることを試みる試み
に挑戦しました。それに取り掛かった途端に、彼は頓挫してしまいました。全く子供
たちとコミュニケーションが取れないのです。野田さんは、どうして自分の目を見な
いのだと言うことで、体育館へ子供たちを引っ張り出して、ドッジボールの投げっこ
をして、目を見て取るということをやらせていました。それを1時間ぐらいやらせて
いたら、何とかコミュニケーションが取れるようになりました。非常に印象的でし

た。

子供たちそのもの特質が変わっていますから、こちらから踏み込んでいってコミュニケーションを取るようなことにしないと、なかなかうまくいかないのだと、その番組を見ていて思いました。自分の経験と全く同じでした。山口委員の御指摘もありましたので、是非よろしくお願いをしたいと思います。

【竹花委員】 同時に、生活習慣や学習環境等に関する調査も行われていますけれども、これについては、東京都は他県に比べて何か特徴的なことがあったり、あるいは2年前に比べて特徴的なことがあったり、そういう状況はありませんか。

【指導部長】 一番象徴的だったのは生活の基本となる早寝早起きです。これにつきましては、小・中学生ともに、特に中学生が顕著でございまして、夜中遅く寝て、遅く起きるところが全国と比べてかなり際立った生活習慣として出ております。

【竹花委員】 分かりました。私も少し勉強してみたいと思うのですが、最近の子供たちに対するスマホ、ゲームの影響といったものがどうなっているのか。特に成績上位県と比べて、そこら辺はどうなのかといったことについても、少し関心を持って検討してみてくださいませんか。そして、もし有意なことがあるのであれば、また御報告いただきたいと思います。よろしくお願います。

【委員長】 最後にもう一つ質問ですが、平成25年実施の全国学力・学習状況調査で、中学校の数学B問題の点数がすごく悪いですね。全国平均も随分低い。これはある程度予想できたことですか。つまり、問題を見て、東京都の先生方にこの件について何かコメントを求められたことはありますか。

【指導部長】 いや、求めておりません。

【委員長】 試験問題というのは、受験生に裏をかかれてしまうことがありますが、逆にこんなに低い成績になるとは、出題者は思っていなかったのではないかと思います。幾つかの問題が非常に誤解を与えるというか、生徒がきちんと判断できなかったような問題があるのではないかと思います。その辺、一度調べておいていただけますか。よろしくお願います。

【指導部長】 はい、分かりました。

【竹花委員】 直接関係ありませんけれども、最近、新聞で文部科学省が、今回の

ものかどうか、私はつまびらかではありません。学力調査の結果を学校別に公表することについて従来の対応を変えて、各県の教育委員会か、各市の教育委員会か、そこはよく分かりませんが、そこに判断を委ねますという方向で検討中だという報道があります。あれは今どういう状況になっているのでしょうか。

【指導部長】 報道でもされているとおりですけれども、都道府県教育委員会と市町村教育委員会では意識にかなり差がございまして、都道府県教育委員会の場合は、各学校の結果の公表については、学校だけではなくて、当該学校を設置している教育委員会も公表できるようにするべきだという考えが40.4パーセントでございました。それに対して、区市町村教育委員会は否定的という結果が出ておりまして、国の調査は自分の地区の平均正答率を出していい。しかし、学校ごとの平均正答率を出してはいけないというのが国の決まりですけれども、東京都の独自の調査については、自治区の平均正答率も学校ごとの平均正答率も、それぞれの区市町村で判断してやってくださいということは私どもとしては申し上げております。私どもとしましては、学校だけではなく、当該学校を設置している教育委員会も公表できるようにするという考えであります。

【竹花委員】 ありがとうございます。まだ決まった話ではなくて、今はまだ議論をしている段階ですか。

【指導部長】 と聞いております。

【竹花委員】 そうすると、平成25年度の学力調査の結果について、学校ごとに公表するとかそういうことにはならないわけですか。これは次回以降の話について今議論しているということでしょうか。

【指導部長】 そのように理解しております。

【竹花委員】 そうですか。東京都がやっているものは、学校ごとに公開することについては、区市町村の教育委員会に委ねますという形になっていて、東京都教育委員会としては、学校ごとの調査は公表していることはしてないわけですね。

【指導部長】 しておりません。

【竹花委員】 分かりました。

【委員長】 よろしゅうございますか。 異議なし それでは、議論

は以上といたしまして、この件についても報告として承りました。ありがとうございました。

参 考 日 程

(1) 教育委員会定例会の開催

11月14日(木)午前10時 教育委員会室

(2) 全国都道府県教育委員長協議会第2回理事会

11月8日(金)午後3時30分 アジュール竹芝

【委員長】 教育政策課長、今後の日程についてお願いします。

【教育政策課長】 今後の日程についてでございますけれども、次回の定例会は11月14日木曜日、午前10時から、ここ教育委員会室で行われます。

なお、全国都道府県教育委員長協議会第2回理事会が11月8日金曜日、午後3時30分より、アジュール竹芝で行われる予定でございます。

私からは以上でございます。

【委員長】 よろしゅうございますか。

それでは、引き続き非公開の審議に入ります。

(午前10時58分)